

平成23年度「うちエコ診断」事業における 受診家庭の募集について

今年度、岩手県地球温暖化防止活動推進センターは、全国地球温暖化防止活動推進センターと協働で、家庭部門での地球温暖化防止対策を推進するための取り組みとして、「うちエコ診断」を通じて家庭のエネルギー消費状況の把握と省CO₂・省エネ対策を提案する「環境コンシェルジュ」制度の構築に向けた、基盤整備のための事業を進めることとしています。（受託者：一般社団法人地球温暖化防止全国ネット）

昨年度、岩手県センターとして取り組んだ「うちエコ診断」を発展させたもので、全国統一基準で募集した、うちエコ診断員が診断に伺います。

9月から、温暖化対策地域協議会などのご協力をいただきながら、本格的にうちエコ診断を受診する家庭を募集いたします。詳しくは、後日、HP等でご案内いたします。

H23年度地域別試行実施のための「うちエコ診断」家庭の募集について(予告)
今年度、全国共通の基準での運用での「うちエコ診断」事業を準備しております。

岩手県地球温暖化防止活動推進センターからのお知らせです！

うちエコ診断 しませんか？

『うちエコ診断』とは？

- どこから・どれだけCO₂が出ているの？
- 専門家があなたのお家のエネルギー使用量を診断します。
- あなたのご家庭にぴったりの省エネ対策を提案します。

CO₂排出の平均比較とランキング CO₂排出分析 効果的な対策の提案

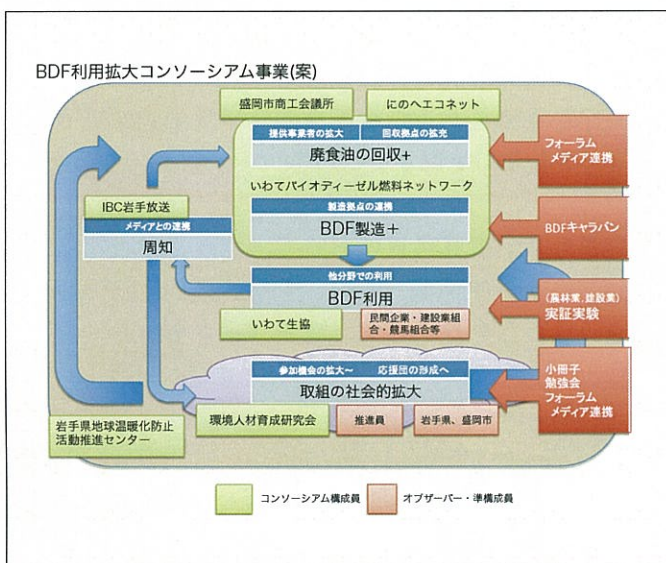
診断の流れ

- うちエコ診断の申込み（詳細は今後）
- 事前調査票の記入（10分程度）
- 診断（窓口）
- 事後アンケート記入

お問い合せはこちら

岩手県地球温暖化防止活動推進センター NPO 法人地球パートナーシップいわて
TEL 019-606-1752 FAX 019-681-1906
〒020-0045 盛岡市盛岡駅前西通1-7-17 1階 いわて環境学習交流センター内
E-mail iccco@ainajp HP: <http://www.ainajp/environment/index.htm>

平成23年度地域活動支援・連携促進事業、 「いわてBDF利用拡大プロジェクト」



広い県土をもつ岩手県ではどうしてもクルマの比重が高く、そのため事業用車両や公用車など必要不可欠な分野で、バイオディーゼル燃料(BDF)が果たす役割は大きいといえます。

消費におけるCO₂の直接的削減だけでなく、地域内での廃食油の調達とBDFの製造および供給により、その他の工程においてもCO₂の削減が図られます。

岩手県内では、いわてバイオディーゼル燃料ネットワークとして事業所が連携し、互いに情報や技術を交換しつつ、各地域の特性を生かしたBDFの製造と流通を行ってきています。さらに、各工程において福祉作業所や地域住民と連携しつつ、単なるバイオ燃料の製造・流通にとどまらない地域相互扶助とエコ活動の環を創り出しています。

本事業は、地域で活動するNPO等が共同でバイオディーゼル燃料の普及活動を行うことにより、地域社会への浸透による廃食油回収の協力者の拡大と、第一次産業等での利用層の拡大によって、BDFの増産を通じてCO₂の排出抑制を図ることを目的とします。

被災地支援の活動の報告

3・11に発生した東日本大震災後、環境学習交流センター業務の沿岸へ出張や活動は今年度はほぼ見込めない状況でしたが、被災地への支援活動としてむしろ積極的に展開を図りました。

流域支援活動として、三陸エコビジョンフォーラムの実行委員会に参加し、県内外の環境NPO・災害支援NGOとともに検討を重ねてきています。また、出張環境学習講座として、避難所等へアクリルたわし講座や、避難所と校舎を分け



ながら再開した小学校で、岩手大学の高木先生の声がけで実現した、自転車発電機での体験学習などを行ってきました。

9月4日に遠野あえりあにおいて、三陸エコビジョンプレフォーラムとして、三陸ゆかりの研究者や気仙沼市唐桑町の畠山重篤さんらの講演や提言、パネルディスカッションを行いました。

この中で、パネリストの臼澤良一さんから、大槌の津波後の状況、ガレキが撤去されて現れたのは、子どもの頃遊んだ風景であり、砂浜、防潮林、波打ち際、磯があり、かつてそこは巨大なビオトープであり、生き物の宝庫だった。

まちづくりはリセットの時代で、自然をないがしろにしてきた人間の奢りが災害を悲惨なものにしている。まちづくり、開発をする人も気づかなければならない、というお話が象徴的でもあり、深く印象に残りました。

11月23日には、再生可能エネルギーのテーマで映画会と飯田哲也さんの講演及び12月9日～11日の3日間にわたるフォーラムを行います。

この震災以降、全国のNPO・NGOとの連携も数多く実現してきました。

災害時における分散型エネルギーとして震災直後、燃料不足で車の通行はほとんど途絶えた中、BDF施設はフル稼働し、支援物資を積んだトラックが沿岸と内陸を往復しました。今後、いわてバイオディーゼル燃料ネットワークと連携して、さらに活動を拡大し、BDFの利用も拡大していきます。

大槌町の吉里吉里小学校では、遠野農林振興セン

ターやNPOが連携し、被災地でのガレキから薪をつくり燃料にした薪ボイラーで、お風呂や洗面、調理のために給湯を行いました。その後、地元NPOが生まれ「復活の薪」として全国に販売を始め、ガレキだけでなく、間伐材からの薪の生産を始めています。

太陽熱に関して、ソーラークッキング友の会横浜ジャパン様よりソーラークッカー2台をご提供いただき、被災された地球温暖化防止活動推進員さんに使っていただきました。



また、太陽光発電を普及する全国規模のNPO法人太陽光発電所ネットワーク(PV-Net)様より、ベランダ太陽光発電キットをご提供いただき、直接、盛岡までおいでいただき調整していただきました。その後、県内の被災された推進員さんにお届けして、学校等で教材として活用いただいております。PV-Net様は、岩手県内では、宮古市において、太陽光発電

電を取り付けられた家庭での被害状況や停電時の自立運転の状況の調査を行っております。



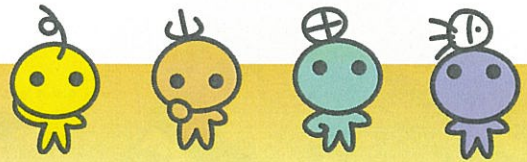
3月27日遠野市社会福祉協議会において、地元のNPOと神戸や静岡の団体が集結し、遠野被災地支援ボランティアネットワークとして遠野まごころネットが発足しました。

今後も長い復興過程において、遠野まごころネットはじめ多くの機関、団体、個人と連携して、地球1個分の暮らしを目指して、環境パートナーシップいわてとして、活動を進めて行きたいと思っております。



報告 (佐々木)

岩手県生活問題研究会



発足から40年近い当研究会は、「手や足を動かし、目で見て考える」ことをモットーにして地道に活動してきました。

また、他団体との連携を大切にし啓発活動にも努力してきています。

当初から活動の中心になっているのは、いのちの源である水が汚染されていないか、汚染の元凶は何かを調査し発信することです。

長い間の調査で分かったことは、河川水の汚染は改善されていることです。

水環境に関心のある人も増えてきていることもありますが、再び元に戻さない努力を今後すすめることがより重要なことではないかと考えます。



活動例紹介

〈メダカの実験〉

◆「洗剤が生態系に及ぼす影響」

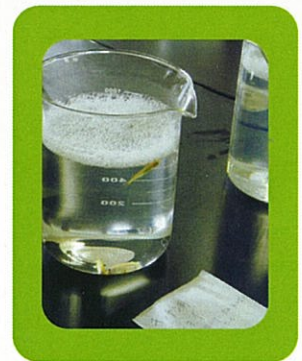
石けん、合成洗剤2種類使用溶液は100倍、1,000倍、10,000倍にうすめる。

◆ 経過の観察

ビーカーに溶液500mlをそれぞれ準備しメダカの状態を観察。死亡した時間を計測。

◆ 観察の結果

洗剤溶液の中では、石けんの水溶液がメダカにとっては生きやすいことが分かった。



〈環境カルタ・エコツリー作り〉

啓発活動の実践

地球温暖化防止、CO₂削減が叫ばれて大分経過しています。

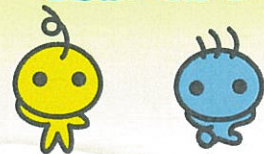
日常の中でどのように意識づけるか、しかも楽しく実践できることがねらいです。絵も文もすべて手作りで考え、出来上がった時は大満足でした。イベントの会場では、カルタとり等も行います。

エコツリーは、来場したひとり一人が日常実践していることや、思っていることを書いて貼り付け一本のツリーを作ります。自由に書くことができるので子どもにも興味関心があるようです。このほか、他団体との連携イベントでは、可能な限り実演をし、啓発活動をこころがけています。

佐藤まゆみ記

問合せ先 事務局
田上みね子 TEL 019-688-6608

NPO法人 岩手県環境カウンセラー協議会



地球環境の保全を願い環境省が認定した岩手県の環境カウンセラーが集い、平成13年にNPO法人に認定された団体です。岩手県の広域に環境カウンセラーが分布しているのですが、機会があるごとに連絡を取り合い活動しております。

現在は、北上市の北上オフィスプラザに事務所があり環境カウンセラーの情報発信基地の役割を果たしております。

環境カウンセラーは事業者部門と市民部門に分かれており、得意分野に応じて環境省に応募するのですが、現在事業者部門14、市民部門8の合計22名のカウンセラーが会員登録しております。この中には岩手県地球温暖化防止活動推進委員や岩手県環境アドバイザーも登録されている会員も多く、環境の専門分野で活動しております。



現在、主たる事業は、環境マネジメントシステムの一つに環境省がガイドラインを作成し国内版であるエコアクション21があります。

その地域事務局としてエコアクション21地域事務局「銀河」を立上げ、エコアクション21の普及、推進、認証・登録事務等を行っております。

その他、幅広い環境問題の基礎的な知識を持ち、さまざまな問題意識を日常の行動に移そうとしている方（エコピープル）を育てるため、環境社会検定試験（エコ検定）の試験対策セミナーの講師派遣などもおこなっております。

なお、今年3月11日に発生した東日本大震災では3回に及ぶボランティア活動を行い180名の参加人員により被災した大槌町の民家の清掃活動を北上・花巻市民に呼びかけ企画し、NPOの活動としての役割を果たしました。その際の活動の一コマです。

今後も東日本大震災で被災した地区に岩手県環境カウンセラー協議会ができることを継続支援していきます。

五ノ井 稔記



問合せ先
五ノ井 稔

岩手県北上市相去町山田2番地18号
北上オフィスプラザ109号室
TEL 0197-62-4147 FAX 0197-62-4157



NPO法人自然環境復元協会(東京)がJAXAから譲り受けた「宇宙を旅したアサガオ種子」の二代目、2500粒を岩手県立大学平塚教室が受けて苗を育成し、被災地仮設住宅の夏のクールダウン効果と潤いを期待し「実行委員会」を設立して取り組んで来ました。その概要を報告します。2008年3月エンデバーで土井隆雄飛行士が教育プログラム用として国際宇宙ステーション(ISS)に運び、12月まで9ヶ月間ISSきぼうのモジュール内に保管して回収されたアサガオ(品種ムラサキ)の種子の二代目。

県立大学には6月7日・11日に到着、紙のエコポットを作成して播種、苗の成長状況から7月2日を現地施工の目標の下に準備に入りました。平塚教授の人脈から、釜石・大槌の二地区に設置を決めて現地での打ち合わせ、最少投資で最大の設置を行うべく施工方法の検討を行い、少なくとも100戸の住宅の方々への提供を決めました。設置時期を失すと効果が失われるため資金目途を後回しにして必要資材の入手を進めると共に、岩手県立大学・小岩井農牧(株)・遠野まごころネットなど同調者をもって「実行委員会」を立ち上げました。NPO ASIA Environmental Alliance 及びNPO日本ビオ

トープ協会東北地区委員会から逸早く協力と資金提供の申し出があり、NPO環境パートナーシップいわてへのプロジェクト提案を行い、事業として承認を頂き積極的に取り組む事となりました。釜石地区では、県の環境カウンセラーである加藤直子さんのご尽力で「釜石市・昭和園ブランド仮設住宅・118戸」を対象に加藤さんのグループ(釜石レディース)と共に、地域住民、ボランティアセンターから派遣された横浜・東京などのボランティア。大槌地区では被災された県の環境審議会委員でもある白澤良一氏の計らいで「大槌町・柁内地区大槌仮設住宅・45戸+a」に、NPO遠野まごころネットから派遣された静岡などのボランティアと共に緑のカーテンを設置しています。今後のメンテナンスや日常管理は住民や地域のサポーターが対応する事としておりますが、涼しくなる前に種子の収穫やネットの取り外しなどの作業があり、次年度の緑のカーテンまで、球根類の花の提供も視野に入れています。「もりおかエコライフ展」にも出展して、被災地のみならず広く一般に普及する事で省エネ・潤いと共に県民の環境意識の向上に繋がる事を願っています。ご協力頂きました皆様に心から感謝申し上げます。(野澤記)

8月▶▶9月

マイバッグキャンペーン 実施中

(レジ袋削減を広める県民会議実行委員会)



背景と目的

- ★ レジ袋辞退啓発運動が全国的広がりを見せている。
- ★ 未だレジ袋は、身近な包装として活用され多量に廃棄されている。
- ★ レジ袋の有料化やマイバックの配布など排出抑制を促進する取り組みが求められている。
- ★ 使い捨てから環境にやさしいライフスタイルへの見直しの転換が求められている。

eco life



↑傘利用マイバッグ

↑風呂敷利用マイバッグ・帽子

マイバッグも持ち歩こう♪

日本では年間約300億枚のレジ袋が消費されています。地球温暖化の原因とされるCO₂（二酸化炭素）はレジ袋をつくる過程、ごみとして燃やす過程でも排出されています。

年間300億枚

change! □□□□□□□□

1人1つのマイバッグ

ゴミになるものは…
・買わない
・もらわない
・家に持ち込まない

***8月1日～9月30日
マイバッグキャンペーン実施中!**

- 雫石町・滝沢村・北上市でマイバッグ講座開催!
- 3R推進フォーラム11月開催! (マイバッグアイデアコンテスト併催)

3R

1. リデュース (減らす)
2. リユース (くり返し使う)
3. リサイクル (再資源化)

主催：レジ袋削減を広める県民会議実行委員会
問合せ：NPO法人環境パートナーシップセンター
TEL/019-681-1904 FAX/019-681-1906
E-mail/kanpai@utopia.ocn.ne.jp

11月予定

3R推進フォーラム開催

マイバッグコンテスト発表
マイ風呂敷実演

マイバッグ講座開催地区

滝沢村

会場 老人福祉センター
住所 滝沢村鶴飼字中鶴飼47-1
日時 9月20日(火)
時間 午後1時～3時
問い合わせ 上野カナエ
TEL 090-2976-5360

北上市

会場 さくらホール
住所 北上市さくら通り2丁目1-1
日時 9月24日(土)
～25日(日)
時間 午後2時～4時
問い合わせ 川辺弥生
TEL 080-3191-4123

雫石町

会場 御所地区健康増進センター
住所 雫石町西安庭40-48-9
日時 9月30日(金)
時間 午後6時30分～8時30分
問い合わせ 小赤澤直子
TEL 090-4639-5785

(渡邊 記)

イベント案内

いわてBDF利用拡大フォーラム

日 時 平成23年10月6日(木)
13:30~16:30

場 所 岩手県民情報交流センター(盛岡市)
8F 812会議室

内 容 基調講演
「バイオディーゼル燃料の現状と課題」仮題
各団体情報交流
BDFキャラバン企画
アピール採択

参加費 無料 要申込 FAX
尚終了後懇親会あり会費3,000円

問い合わせ 佐々木・岩館 TEL 019-606-1752
FAX 019-606-1753

岩手県消費者大会 「大震災を越えて 創ろう岩手の未来」

日 時 10月28日(金) 10:30~15:00

会 場 岩手県産業会館(サンビル)7F

午前 全大会 10:30~基調講演
京都大学大学院教授 岡田知弘先生
「大震災で見てきた社会のひずみと原発事故」

午後 分科会 13:10~15:00
①食料 ②環境・エネルギー ③社会保障 ④平和

▶県内の消費者(団体)の運動と要求を持ち寄り、活動経験を交流し学習する場として毎年開催しています。今年は3月11日の大震災で亡くなられた方を悼み、放射能と向き合い被災者とともに乗り越え復興に向かう大会です。

主 催 岩手県消費者大会実行委員会
問い合わせ 岩手県消団連 019-684-2225

閉伊川大学校「わくわく自然塾」

ヤマメと遊ぼう
(ヤマメの採卵・サクラマスの不思議!)

日 時 平成23年10月15日・土曜日(予定)

会 場 閉伊川漁協・和井内養鱒場(JR押角駅そば)
宮古市和井内第1地割10-19
国道340号沿(国道106号茂市交差点より約15km岩泉側)

対 象 宮古市内小学生以上、定員20名程(親子参加可)

参加費 500円

P R 1、目で確認「養魚場の施設見学」
2、手で体験「ヤマメの採卵」
3、味で記憶「ヤマメのちゃんちゃん焼き」

▶閉伊川漁協さんの協力をいただき、養魚場見学や採卵体験といった貴重な体験をし、ふるさとの地域水産資源を学び、自然の大切さを学ぶとともに科学的思考力を養う場を提供いたします。

問い合わせ さんりくESD閉伊川大学校
〒027-0031 宮古市八木沢7-43-2
事務局長 水木 高志
TEL 090-2274-6031



~わたしの一言~



一馬力の威力
初めて馬に乗った時、揺れるし、高いし、怖かったなあ〜〜。

慣れるとその揺れが心地よくなってきます。これから先、ガソリンがなくなってしまっても一馬力が威力を発揮する時代がやってくるかもしれません。今から、馬っこに慣れておくことをお勧めします。

田近志保子



編集
後記

未曾有の大震災から半年が経ちました。環境パートナーシップいわて(環ぱい)では、復興に向けて団体で出来る支援をこれからも継続していきます。ニュースレターでもシリーズで支援活動状況等をお伝えして皆様と情報を共有してまいりたいと思います。

発行：NPO法人 環境パートナーシップいわて

事務局〒020-0124 盛岡市厨川5-8-6 TEL:019-681-1904(直通)FAX:019-681-1906
e-mail kanpai@utopia.ocn.ne.jp

環境学習交流センター・岩手県地球温暖化防止活動推進センター
〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通1丁目7-1岩手県民情報交流センター・アイーナ5F
TEL:019-606-1752 FAX:019-606-1753